

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.

Requested document:	<a href="#">JP2000119155 click here to view the pdf document</a>
---------------------	--

## SKIN LOTION

Patent Number: JP2000119155  
Publication date: 2000-04-25  
Inventor(s): UEHARA SHIZUKA; ASANO YOSHIE  
Applicant(s): KOSE CORP  
Requested Patent:  [JP2000119155](#)  
Application: JP19980291790 19981014  
Priority Number(s):  
IPC Classification: A61K7/48; A61K7/00; A61K7/42; A61K7/50;  
EC Classification:  
Equivalents:

---

### Abstract

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a skin lotion, capable of improving the effect originally possessed by the medicament, and having excellent moisture-retaining activities, chapped skin-improving activities, cutaneous senility-preventing activities or the like.

**SOLUTION:** This skin lotion contains (A) one or more kinds of specific plant extracts of Tuckahoe, carrot, Althaea officinalis, arnica, aloe, nettle, Foeniculum vulgare, witch hazel, Scutellaria baicalensis, Phellodendron amurense, Hypericum erectum Thunb, chamomile, Artemisia capillaris, kiwi, cucumber, woodbine, Sophora angustifolia, grape, comfrey, Crataegus cuneata, Rehmannia glutinosa, Perilla frutescens crispa, Paeonia lactiflora, silver birch, Equisetum arvense, Tilia migueliana, salvia, mulberry and the like and (B) one or more kinds of medicaments selected from a humectant and a cell activator and (C) one or more kinds of selected from vitamins, glycyrrhizinic acid, glycyrrhetic acid, those derivatives, and those salts.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-119155

(P2000-119155A)

(43)公開日 平成12年4月25日(2000.4.25)

(51) Int Cl.'  
A 6 1 K 7/48  
7/00

識別記号

F I  
A 6 1 K 7/48  
7/00

テーマコード\*(参考)  
4C083

7/42

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全25頁) 最終頁に続く

(21) 出廠番号

特圖平10-291790

(71) 出願人 000145862

株式会社コーナー

東京都中央区日本橋3丁目6番2号

(22)出願日 平成10年10月14日(1998.10.14)

(72) 発明者 上原 静香

東京都北区学

### 二研蜜本部肉

(72)發明者　達縣　可江

卷一百一十五

東京都北区東町4番13号 保氏会社  
—研究本部—

— 19 —

最終頁に統ぐ

(54) 【発明の名称】 皮膚外用剤

(57)【要約】

【課題】薬効剤が本来有する効果を向上し、保湿及び肌荒れ改善、皮膚の老化防止等に優れた効果を有する皮膚外用剤を提供する。

【解決手段】 (A) プクリョウ、ニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ、イラクサ、ウイキョウ、ウイックヘーゼル、コガネバナ、キハダ、オトギリソウ、カミツレ、カワラヨモギ、キウイ、キュウリ、スイカズラ、クララ、ブドウ、コンフリー、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スキナ、ボダイジュ、サルビア、クワ等の特定の植物抽出物の一種又は二種以上と、(B) 保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上と、更には、(C) ビタミン類、グリチルリチン酸、グリチルレチン酸、及びそれらの誘導体並びにそれらの塩から選ばれる一種又は二種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤。

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】 次の成分(A)及び(B)；

(A) ブクリョウ、ニンジン、オタネニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ、イラクサ、ウイキョウ、ウイックヘーゼル、ウコン、コガネバナ、キハダ、オトギリソウ、イネ、イブキトラノオ、カミツレ、カワラヨモギ、キウイ、キュウリ、スイカズラ、クララ、ブドウ、クチナシ、クレソン、コンフリー、サボンソウ、サボテン、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スギナ、ボダイジュ、サルビア、センブリ、センキュウ、クワ、ダイズ、タチジャコウソウ、トウキ、トウキンセンカ、ドクダミ、ナツメ、ニワトコ、パセリ、ハトムギ、ブッチャーズブルーム、ヘチマ、ガマ、ホップ、マロニエ、メリッサ、モモ、ユキノシタ、キイチゴ、ラベンダー、レンゲ、バラ、ノイバラ、ローズマリー、カンゾウ、チャ、ユリ、オオムギ、コムギ、アシタバ、アンズ、カラスマギ、トウモロコシ、ゼニアオイ、ムラサキ、トウガラシ、ショウガ、レタス、レモン、マルメロ、オレンジ、イチゴ、ベニバナ、ブナ、ゲンチアナ、リンドウ、ハッカ、ミドリハッカ、セイヨウハッカ、ムクロジ、ユーカリ、ウスベニアオイ、クマザサ、ウスバサイシン、ケイリンサイシン、オドリコソウ、ゴボウ、ニンニク、ハウチマメ、イナゴマメ、マツ、キヅタ、ヤグルマソウ、ワレモコウ、コボタンヅル、シモツケ、アボカド、トウチュウカソウ、カイソウ、グレープフルーツ、ブルーン、ライム、ゲンノショウコ、シイタケ、オノニス、トルメンチラ、ユズ、オウレン、ヒノキ、ボタン、オオバジャノヒゲ、オリーブ、ヒマワリ、ホホバ、マカデミアナッツ、メドウホーム、ツバキ、アーモンド、カカオ、ゴマ、シア、ボラージから選ばれる一種又は二種以上の植物抽出物

(B) 保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【請求項2】 保湿剤がヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、デルマタン硫酸、ヘパラン硫酸、ヘパリン及びケラタン硫酸等のムコ多糖類またはそれらの塩、コラーゲン、エラスチン、フィプロネクチン、ケラチン等のタンパク質またはそれらの誘導体、加水分解物並びにそれらの塩、グリシン、アラニン、バリン、イソロイシン、セリン、スレオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アスパラギン、グルタミン、リジン、ヒドロキシリジン、アルギニン、システイン、シスチン、メチオニン、フェニルアラニン、チロシン、トリプトファン、ヒスチジン、プロリン、ヒドロキシプロリン、オルチニン、シトルリン、テアニン等のアミノ酸及びそれらの誘導体並びにそれらの塩、あるいはピロリドンカルボン酸等のアミノ酸誘導体またはその塩、ソルビトール、エリスリトール、マルトース、マルチトール、キシリトール、キシロース、トレハロース、イノシトール、グルコース、マンニトール、ペンタエリスリトール、果糖、蔗糖およびそ

のエステル、デキストリン及びその誘導体、ハチミツ、黒砂糖抽出物等の多価アルコール又は糖類、ムチン、パンテノール及びその誘導体並びにそれらの塩、尿素、リン脂質、糖脂質、セラミドの一種又は二種以上から選ばれる請求項1記載の皮膚外用剤。

【請求項3】 細胞賦活剤が、デオキシリボ核酸及びその塩、アデノシン三リン酸、アデノシン二リン酸、アデノシン一リン酸等のアデニル酸誘導体及びそれらの塩、リボ核酸及びその塩、サイクリックAMP、サイクリックGMP、フラビンアデニンヌクレオチド、グアニン、アデニン、シトシン、チミン、キサンチン及びそれらの誘導体であるカフェイン、テオフィリン並びにそれらの塩から選ばれる核酸関連物質；ブタ、ウシ等の胎盤抽出物、幼牛血液抽出液、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、トリ等の卵成分、鶏冠抽出物、魚肉抽出物、イカスミ等軟体動物抽出物、貝殻抽出物、貝肉抽出物、ローヤルゼリー、シルクプロテイン及びその分解物又はそれらの誘導体、ヘモグロビン又はその分解物、ラクトフェリン又はその分解物等、哺乳類、鳥類、魚類、軟体動物類、甲殻類、貝類、昆虫類等の動物由来の抽出物；酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、醸酵代謝産物等の微生物由来の抽出物； $\alpha$ -及び $\gamma$ -リノレン酸、エイコサペンタエン酸及びそれらの誘導体、エストラジオール、エテニルエストラジオール等のホルモン類、グリコール酸、クエン酸、乳酸、リンゴ酸、酒石酸、コハク酸等の有機酸及びそれらの誘導体並びにそれらの塩から選ばれる一種又は二種以上から選ばれる請求項1記載の皮膚外用剤。

【請求項4】 更に、成分(C)としてビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩、グリチルレチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩を含有することを特徴とする請求項1～3記載の皮膚外用剤。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は皮膚外用剤に関し、更に詳細には特定の植物抽出物の一種又は二種以上と保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上を含有することにより、保湿及び肌荒れ改善、皮膚の老化防止等に有効であり、更にビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩、グリチルレチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上を含有することにより、更に優れた肌荒れ改善、老化防止効果を有する化粧料及び外用医薬品等の皮膚外用剤に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、乳液、クリーム、化粧水、パック、洗浄料、軟膏、分散液等の皮膚外用剤には、これらに所定の薬効を付与することを目的として薬効成分が加えられている。肌荒れを改善するために尿素、アミノ酸等の保湿剤、皮膚老化防止の改善のためにローヤルゼ

リ一等の細胞賦活剤等が配合されている。

#### 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これらの薬効成分を単独で配合した皮膚外用剤では、薬効成分の効果が十分でなかつたり、あるいは、製剤中で変質する等して所期の薬効が得られない場合が多く、その改善が望まれていた。

#### 【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、皮膚外用剤の薬効剤の効果を向上させるべく鋭意検討を行つた結果、特定の植物抽出物の一種又は二種以上と、保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる一種又は二種以上とを組み合わせることにより、本来保湿剤及び細胞賦活剤の有する作用が充分發揮され、すなわち保湿及び肌荒れ改善、皮膚の老化防止に有効であり、更に特定の薬効剤を組み合わせれば、よりその効果が高まることを見出し、本発明を完成した。

【0005】すなわち、本発明は、次の成分（A）及び（B）：

(A) ブクリョウ、ニンジン、オタネニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ、イラクサ、ウイキョウ、ウイッチヘーゼル、ウコン、コガネバナ、キハダ、オトギリソウ、イネ、イブキトラノオ、カミツレ、カワラヨモギ、キウイ、キュウリ、スイカズラ、クララ、ブドウ、クチナシ、クレソン、コンフリー、サボンソウ、サボテン、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スギナ、ボダイジュ、サルビア、センブリ、センキュウ、クワ、ダイズ、タチジャコウソウ、トウキ、トウキンセンカ、ドクダミ、ナツメ、ニワトコ、パセリ、ハトムギ、ブッチャーズブルーム、ヘチマ、ガマ、ホップ、マロニエ、メリッサ、モモ、ユキノシタ、キイチゴ、ラベンダー、レンゲ、バラ、ノイバラ（エイジツ）、ローズマリー（マンネンロウ）、カンゾウ、チャ（リョクチャ、コウチャ、ウーロンチャ）、ユリ、オオムギ（麦芽根）、コムギ、アシタバ、アンズ（キョウニン）、カラスマギ、トウモロコシ、ゼニアオイ（ウスベニタチアオイ）、ムラサキ（シコン）、トウガラシ、ショウガ、レタス、レモン、マルメロ、オレンジ、イチゴ、ベニバナ、ブナ、ゲンチアナ、リンドウ、ハッカ、ミドリハッカ、セイヨウハッカ、ムクロジ、ユーカリ、ウスベニアオイ、クマザサ、ウスバサイシン、ケイリンサイシン、オドリコソウ、ゴボウ、ニンニク、ハウチマメ、イナゴマメ、マツ、キヅタ、ヤグルマソウ、ワレモコウ、コボタンヅル、シモツケ、アボカド、トウチュウカソウ、カイソウ、グレープフルーツ、ブルーン、ライム、ゲンノショウコ、シイタケ、オノニス、トルメンチラ、ユズ、オウレン、ヒノキ、ボタン、オオバジャノヒゲ、オリーブ、ヒマワリ、ホホバ、マカデミアナッツ、メドウホーム、ツバキ、アーモンド、カカオ、ゴマ、シア、ボラージから選ばれる一種又は二種以上の植物抽出物

(B) 保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上

更に、成分（C）ビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩、グリチルレチノン酸及びその誘導体並びにそれらの塩を含有する皮膚外用剤を提供するものである。

#### 【0006】

【発明の実施の形態】本発明の（A）成分である植物抽出物は以下に示すものが挙げられる。

【0007】すなわち、ブクリョウ、ニンジン、オタネニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ（キュラソーアロエ、アロエベラ）、イラクサ、ウイキョウ、ウイッチヘーゼル（ハマメリス）、ウコン、コガネバナ（オウゴン）、キハダ（オウバク）、オトギリソウ、イネ（コメ）、イブキトラノオ、カミツレ、カワラヨモギ（インチンコウ）、キウイ、キュウリ、スイカズラ（キンギンカ）、クララ（クジン）、ブドウ、クチナシ、クレソン（オランダカラシ）、コンフリー（ヒレハリソウ）、サボンソウ、サボテン、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スギナ、ボダイジュ、サルビア（セージ）、センブリ、センキュウ、クワ（ソウハクヒ）、ダイズ、タチジャコウソウ（タイム）、トウキ、トウキンセンカ、ドクダミ、ナツメ（タイソウ）、ニワトコ、パセリ、ハトムギ（ヨクイニン）、ブッチャーズブルーム、ヘチマ、ガマ（ホオウ）、ホップ、マロニエ、メリッサ、モモ、ユキノシタ、キイチゴ、ラベンダー、レンゲ、バラ、ノイバラ（エイジツ）、ローズマリー（マンネンロウ）、カンゾウ、チャ（リョクチャ、コウチャ、ウーロンチャ）、ユリ、オオムギ（麦芽根）、コムギ、アシタバ、アンズ（キョウニン）、カラスマギ、トウモロコシ、ゼニアオイ（ウスベニタチアオイ）、ムラサキ（シコン）、トウガラシ、ショウガ、レタス、レモン、マルメロ、オレンジ、イチゴ、ベニバナ、ブナ、ゲンチアナ、リンドウ（リュウタン）、ハッカ、ミドリハッカ（スペアミント）、セイヨウハッカ（ペパーミント）、ムクロジ、ユーカリ、ウスベニアオイ、クマザサ、ウスバサイシン、ケイリンサイシン、オドリコソウ、ゴボウ、ニンニク、ハウチマメ、イナゴマメ、マツ、キヅタ、ヤグルマソウ、ワレモコウ（ジユ）、コボタンヅル、シモツケ、アボカド、トウチュウカソウ、カイソウ、カイソウ（コンブ、マコンブ、ワカメ、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、マツモ、モズク、イシゲ、ハバノリ、コンブモドキ、フクロノリ、イワヒゲ、カゴメノリ、アナメ、スジメ、トロロコンブ、カジメ、ツルアラメ、チガイソ、エゾイシゲ、ラッパモク、ホンダラワ、オオバモク、ジャイアントケルフ等の褐藻類；テングサ、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、トサカノリ、キリンサイ、ツノマタ、トチヤカ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、ウスバノリ、ウシケノリ、アサクサノリ、フサノリ、カキノリ、ヒビロウド、カタノリ、ムカデノリ、マツノリ、トサカマツ、フノリ、イバラノリ、オゴノリ、カイメンソウ、ダルス、イギス、エゴノリ、コノハノリ、ヒメゴケ

等の紅藻類；クロレラ、アオノリ、ドナリエラ、クロロコッカス、アナアオサ、カワノリ、マリモ、シオグサ、カサノリ、フトジュズモ、タマジュズモ、ヒトエグサ、アオミドロ等の緑藻類；スピルリナ等の藍藻類）グレープフルーツ、ブルーン、ライム、ゲンノショウコ、シイタケ、オノニス、トルメンチラ、ユズ（キジツ）、オウレン、ヒノキ、ボタン（ボタンビ）、オオバジャノヒゲ（バクモンドウ）、オリーブ、ヒマワリ（サフラワー）、ホホバ、マカデミアナッツ、メドウホーム、ツバキ、アーモンド、カカオ、ゴマ、シア、ボラージ（ルリジサ）等が挙げられ、これらの一種又は二種以上を組み合わせて用いても良い。（尚、（ ）内は、その植物の種類、別名、生薬名等を示す。）

【0008】(A) 成分の植物抽出物の抽出部位や、抽出方法等に特に制限はなく、例えば植物の全草、又は根、茎、幹、樹皮、幼芽、葉、花、果実、種子等から抽出することが出来、これらを乾燥、細切、圧搾、或いは発酵等、適宜処理を施し、種々の適当な溶媒を用いて低温もしくは室温～加温下で抽出することができる。

【0009】抽出溶媒としては、例えば水；メチルアルコール、エチルアルコール等の低級1価アルコール；グリセリン、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の液状多価アルコール等の一種または二種以上を用いることができる。また、ヘキサン、アセトン、酢酸エチル、エーテル等の親油性溶媒を用いて抽出することもでき、その他、スクワラン等の油性成分等により抽出することもできる。得られた抽出液は済過またはイオン交換樹脂を用い、吸着、脱色、精製して溶液状、ベースト状、ゲル状、粉末状とすることもできる。必要なならば、効果に影響のない範囲で更に、脱臭、脱色等の精製処理をしても良い。好ましい抽出方法の例としては、含水濃度20～80%（v/v）のエチルアルコールまたは1, 3-ブチレングリコールを用い、室温にて1～5日間抽出を行ったのち済過し、得られた済液を更に、1週間ほど放置して熟成させ、再び済過を行う方法が挙げられる。

【0010】本発明における(A)成分である植物抽出物の含有量は、乾燥固体として好ましくは0.0005～10重量%（以下、単に「%」で示す）の範囲であり、より好ましくは0.005～5%の範囲である。この範囲であれば、本発明の効果がより顕著に発現する。抽出液を使用する場合は、溶質である乾燥固体分の含有量が上記範囲内であれば、その抽出液濃度は如何に限定されるものではない。

【0011】一方、本発明の(B)成分は、保湿剤、細胞賦活剤から選ばれるものであるが、具体的な薬効剤としては、それ以下に示すものが挙げられる。以下に示すものが挙げられる。

【0012】保湿剤としては、従来から皮膚外用剤に用いられているムコ多糖類、タンパク質、アミノ酸類、多

価アルコール類、糖類等が挙げられる。

【0013】例えば、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、デルマタン硫酸、ヘパラン硫酸、ヘパリン及びケラタン硫酸等のムコ多糖類またはそれらの塩、コラーゲン、エラスチン、フィプロネクチン、ケラチン等のタンパク質またはそれらの誘導体、加水分解物並びにそれらの塩、グリシン、アラニン、バリン、イソロイシン、セリン、スレオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アスパラギン、グルタミン、リジン、ヒドロキシリジン、アルギニン、シテイン、シスチン、メチオニン、フェニルアラニン、チロシン、トリプトファン、ヒスチジン、プロリン、ヒドロキシプロリン、オルチニン、シトルリン、テアニン等のアミノ酸及びそれらの誘導体並びにそれらの塩、あるいはピロリドンカルボン酸等のアミノ酸誘導体またはその塩、ソルビトール、エリスリトール、マルトース、マルクトール、キシリトール、キシロース、トレハロース、イノシトール、グルコース、マンニトール、ペンタエリスリトール、果糖、蔗糖およびそのエステル、デキストリン及びその誘導体、ハチミツ、黒砂糖抽出物等の多価アルコール又は糖類、ムチン、パンテノール及びその誘導体並びにそれらの塩、尿素、リン脂質、糖脂質、セラミド等が挙げられる。

【0014】このうち、好ましいものとしては、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸またはそれらの塩、コラーゲン、エラスチン、ケラチンから選ばれるタンパク質またはそれらの誘導体、加水分解物並びにそれらの塩、グリシン、セリン、アルギニン、グルタミン、グルタミン酸、テアニン、プロリンから選ばれるアミノ酸およびその塩並びにそれらの誘導体、ピロリドンカルボン酸及びその塩、ソルビトール、エリスリトール、キシリトール、キシロース、トレハロース、イノシトール、グルコース、マンニトール、ムチン、パンテノール及びその誘導体並びにそれらの塩、尿素、リン脂質が挙げられる。

【0015】細胞賦活剤としては、デオキシリボ核酸及びその塩、アデノシン三リン酸、アデノシン二リン酸、アデノシン一リン酸等のアデニル酸誘導体及びそれらの塩、リボ核酸及びその塩、サイクリックAMP、サイクリックGMP、フラビニアデニンヌクレオチド、グアニン、アデニン、シトシン、チミン、キサンチン及びそれらの誘導体であるカフェイン、テオフィリン並びにそれらの塩から選ばれる核酸関連物質；ブタ、ウシ等の胎盤抽出物、幼牛血液抽出液、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、トリ等の卵成分、鶏冠抽出物、魚肉抽出物、イカスミ等軟体動物抽出物、貝殻抽出物、貝肉抽出物、ローヤルゼリー、シルクプロテイン及びその分解物又はそれらの誘導体、ヘモグロビン又はその分解物、ラクトフェリン又はその分解物等、哺乳類、鳥類、魚類、軟体動物類、甲殻類、貝類、昆虫類等の動物由来の抽出物；酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、醣酵代謝産物等の微生物由来の抽出物； $\alpha$ -及び $\gamma$ -リノレン

酸、エイコサペンタエン酸及びそれらの誘導体、エストラジオール、エテニルエストラジオール等のホルモン類、グリコール酸、クエン酸、乳酸、リンゴ酸、酒石酸、サリチル酸、コハク酸等の有機酸及びそれらの誘導体並びにそれらの塩等が挙げられる。

【0016】これらのうち、特に好ましいものとしては、アデノシン三リン酸、アデノシン二リン酸、アデノシン一リン酸等のアデニル酸誘導体及びそれらの塩、カフェイン、胎盤抽出物、血清除蛋白抽出物、ローヤルゼリー、貝殻抽出物、貝肉抽出物、ラクトフェリン又はその分解物、酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、 $\alpha$ -及び $\gamma$ -リノレン酸、エイコサペンタエン酸及びそれらの誘導体、エストラジオール及びその誘導体並びにそれらの塩、グリコール酸、乳酸、リンゴ酸、サリチル酸及びそれらの誘導体塩並びにそれらの塩が挙げられる。

【0017】本発明の皮膚外用剤における上記(B)成分の保湿剤及び/又は細胞賦活剤の含有量としては、好ましくは0.0001~5%、特に0.01~3%の範囲である。この範囲であれば、(A)成分、又は(A)成分及び(C)成分と組み合わせた場合、製剤及び製剤中の(A)成分及び(C)成分の経時安定性に影響を及ぼすことがなく、より高い効果を発揮させることができる。

【0018】これらの保湿剤、細胞賦活剤は、一種又は二種以上組み合わせて用いることができる。

【0019】更に、本発明の(C)成分であるビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩、グリチルレチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩を含有することにより、より優れた効果を発揮するものとなり、より好ましい。(C)成分として具体的には、以下に示すものが挙げられる。

【0020】すなわち、レチノール及びその誘導体(パルミチン酸レチノール、酢酸レチノール等)、レチナール及びその誘導体、デヒドロレチナール、カロチン、リコピン、アスタキサンチン等のカロチノイド等のビタミンA類；チアミン類(チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩)、リボフラビン類(リボフラビン、酢酸リボフラビン等)、ビリドキシン類(塩酸ビリドキシン、ビリドキシンジオクタノエート等)、フラビンアデニンヌクレオチド、シアノコバラミン、葉酸類、ニコチン酸類(ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル等)、コリン類等のビタミンB類；アスコルビン酸及びその誘導体(L-アスコルビン酸、パルミチン酸-L-アスコルビル、ジパルミチン酸-L-アスコルビル、イソパルミチン酸-L-アスコルビル、ジイソパルミチン酸-L-アスコルビル、テトライソパルミチン酸-L-アスコルビル、ステアリン酸-L-アスコルビル、ジステアリン酸-L-アスコルビル、イソステアリン酸-L-アスコルビル、ジイソステアリン酸-L-アスコルビル、ミリスチン酸-L-アスコルビル、ジ

ミリスチン酸-L-アスコルビル、イソミリスチン酸-L-アスコルビル、ジイソミリスチン酸-L-アスコルビル、オレイン酸-L-アスコルビル、ジオレイン酸-L-アスコルビル、2-エチルヘキサン酸-L-アスコルビル、L-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム、L-アスコルビン酸エステルカリシウム、L-アスコルビン酸エステルカルシウム、L-アスコルビン酸エステルマグネシウム、L-アスコルビン酸エステルアルミニウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルカリウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルマグネシウム、L-アスコルビン酸硫酸エステルアルミニウム、L-アスコルビン酸ナトリウム、L-アスコルビン酸カリウム、L-アスコルビン酸マグネシウム、L-アスコルビン酸カルシウム、L-アスコルビン酸アルミニウム等)等のビタミンC類；エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール、ジヒドロキシスタナール等のビタミンD類；トコフェロール及びその誘導体(d1- $\alpha$ ( $\beta$ 、 $\gamma$ )-トコフェロール、酢酸d1- $\alpha$ -トコフェロール、ニコチン酸-d1- $\alpha$ -トコフェロール、リノール酸-d1- $\alpha$ -トコフェロール、コハク酸d1- $\alpha$ -トコフェロール等)、ユビキノン類等のビタミンE類；リノール酸及びその誘導体等のビタミンF類；フィトナジオン、メナキノン、メナジオン、メナジオール等のビタミンK類；ルチン及びその誘導体、エリオシトリン、ヘスペリジン等のビタミンP類；その他、ビオチン、カルチニン、フェルラ酸等のビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩(グリチルリチン酸ジカリウム、グリチルリチン酸モノアンモニウム等)、グリチルレチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩( $\beta$ -グリチルレチン酸、グリチルレチン酸ステアリル、3-サクシニルオキシグリチルレチン酸二ナトリウム等)が挙げられる。

【0021】これらのうち、特に好ましいものは、パルミチン酸レチノール、酢酸レチノール、カロチン、リコピン、アスタキサンチン、チアミン塩酸塩、チアミン硫酸塩、リボフラビン、塩酸ビリドキシン、ニコチン酸アミド、L-アスコルビン酸、パルミチン酸-L-アスコルビル、ジパルミチン酸-L-アスコルビル、テトライソパルミチン酸-L-アスコルビル、L-アスコルビン酸硫酸エステルナトリウム、L-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム、L-アスコルビン酸リン酸エステルナトリウム、エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール、d1- $\alpha$ ( $\beta$ 、 $\gamma$ )-トコフェロール、酢酸d1- $\alpha$ -トコフェロール、ニコチン酸-d1- $\alpha$ -トコフェロール、リノール酸-d1- $\alpha$ -トコフェロール、リノール酸、ルチン及びその誘導体、ヘスペリジン、ビオチン、グリチルリチン酸ジカリウム、グリチルレチン酸ステアリルが挙げられる。

【0022】上記の(C)成分である薬効剤の本発明の

組成物への含有量は、好ましくは0.0001～5%であり、より好ましくは0.001～3%である。この範囲であればより優れた保湿、肌荒れ改善、老化防止等の効果を示す皮膚外用剤が得られる。なお、これらは一種又は二種以上を組み合わせて用いることができる。

【0023】本発明の皮膚外用剤の例としては、特に限定されず、例えば、乳液、クリーム、化粧水、パック、オイル等の基礎化粧料、洗顔料や全身洗浄料、シャンプー、リンス、ヘアトリートメント、ヘアクリーム、ヘアスプレー、ヘアトニック、整髪料、育毛・養毛料等の頭髪化粧料、ファンデーション、白粉、口紅、マスカラ、アイシャドウ、アイライナー、眉墨、美爪料等のメイクアップ化粧料、腋臭防止剤、軟膏、分散液等の外用医薬品等とすることができる、その剤型についても特に制限はなく、固型状、ペースト状、ムース状、ジェル状、粉末状、溶液系、可溶化系、乳化系、粉末分散系、多層状とすることができます。

【0024】また、本発明の皮膚外用剤には、上記(A)、(B)、(C)成分以外に、本発明の効果を損なわない範囲で、通常、化粧料や医薬部外品、外用医薬品等の製剤に使用される成分、すなわち、水(精製水、温泉水、深層水等)、油剤、界面活性剤、金属セッケン、ゲル化剤、粉体、アルコール類、水溶性高分子、皮膜形成剤、樹脂、紫外線防御剤、包接化合物、抗菌剤、香料、消臭剤、塩類、PH調整剤、清涼剤、動物・微生物由来抽出物、植物抽出物、美白剤、血行促進剤、収斂剤、抗脂漏剤、抗炎症剤、活性酸素消去剤、抗酸化剤、角質溶解剤、酵素等を適宜一種又は二種以上添加することができる。

【0025】油剤としては、通常の化粧料に使用されるものであれば、天然系油であるか、合成油であるか、或いは、固体、半固体、液体であるか等の性状は問わず、炭化水素類、ロウ類、脂肪酸類、高級アルコール類、エステル油、シリコーン油類、フッ素系油類等、いずれの油剤も使用することができる。例えば、オゾケライト、スクワラン、スクワレン、セレシン、パラフィン、パラフィンワックス、流動パラフィン、ブリスタン、ポリイソブチレン、マイクロクリスタリンワックス、ワセリン等の炭化水素類、ミツロウ、カルナバロウ、キャンドリラロウ、鯨ロウ等のロウ類、牛脂、牛脚脂、牛骨脂、硬化牛脂、硬化油、タートル油、豚脂、馬脂、ミンク油、肝油、卵黄油等の動物油、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、ラノリンアルコール、硬質ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等のラノリン誘導体、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸、オレイン酸、アラキドン酸、ドコサヘキサエン酸(DHA)、

イソステアリン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等の脂肪酸類、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、パルミチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ヘキサデシルアルコール、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール、ヘキシルドデカノール、オクチルドデカノール、セトステアリルアルコール、2-デシルテトラデシノール、コレステロール、フィトステロール、シトステロール、ラノステロール、POEコレステロールエーテル、モノステアリルグリセリンエーテル(パチルアルコール)等の高級アルコール、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、イソステアリン酸イソセチル、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、ジー2-エチルヘキサン酸エチレングリコール、2-エチルヘキサン酸セチル、トリ-2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサン酸ベンタエリスリトール、オクタン酸セチル、オクチルドデシルガムエステル、オレイン酸オレイル、オレイン酸オクチルドデシル、オレイン酸デシル、ジカプリン酸ネオベンチルグリコール、クエン酸トリエチル、コハク酸2-エチルヘキシル、酢酸アミル、酢酸エチル、酢酸ブチル、ステアリン酸イソセチル、ステアリン酸ブチル、セバシン酸ジイソプロピル、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸2-エチルヘキシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、12-ヒドロキシステアリ酸コレステリル、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、ミリスチン酸ミリスチル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、ラウリン酸エチル、ラウリン酸ヘキシル、N-ラウロイル-レーグルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、リング酸ジイソステアリル等のエステル油、アセトグリセライド、トリイソオクタン酸グリセライド、トリイソステアリン酸グリセライド、トリイソパルミチン酸グリセライド、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセライド、モノステアリン酸グリセライド、ジー2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、トリミリスチン酸グリセライド等のグリセライド油、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルハイドロジエンポリシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサシロキサン、テトラメチルテトラハイドロジェンシクロテトラシロキサン、ステアロキシシリコーン等の高級アルコキシ変性シリコーン、高級脂肪酸変性シリコーン、シリコーン樹脂、シリコンゴム、シリコーンレジン等のシリコーン油、パーフルオロポリエーテル、パーフルオロデカリン、パーフルオロオクタン等の

フッ素系油剤が挙げられる。

【0026】界面活性剤としては、アニオン性、カチオン性、非イオン性及び両性の活性剤があるが、アニオン性界面活性剤としては、ステアリン酸ナトリウムやパルミチン酸トリエタノールアミン等の脂肪酸セッケン、アルキルエーテルカルボン酸及びその塩、アミノ酸と脂肪酸の縮合等のカルボン酸塩、アルキルスルホン酸、アルケンスルホン酸塩、脂肪酸エステルのスルホン酸塩、脂肪酸アミドのスルホン酸塩、アルキルスルホン酸塩とそのホルマリン縮合物のスルホン酸塩、アルキル硫酸エステル塩、第二級高級アルコール硫酸エステル塩、アルキル及びアリルエーテル硫酸エステル塩、脂肪酸エステルの硫酸エステル塩、脂肪酸アルキロールアミドの硫酸エステル塩、ロート油等の硫酸エステル塩類、アルキルリン酸塩、エーテルリン酸塩、アルキルアリルエーテルリン酸塩、アミドリン酸塩、N-アシルアミノ酸系活性剤等；カチオン性界面活性剤としては、アルキルアミン塩、ポリアミン及びアミノアルコール脂肪酸誘導体等のアミン塩、アルキル四級アンモニウム塩、芳香族四級アンモニウム塩、ビリジウム塩、イミダゾリウム塩等；非イオン性界面活性剤としては、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、プロピレングリコール脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、ショ糖脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシプロピレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンプロピレングリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンフィットスタノールエーテル、ポリオキシエチレンフィットステロールエーテル、ポリオキシエチレンコレステラノールエーテル、ポリオキシエチレンコレステリルエーテル、ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサン、ポリオキシアルキレン・アルキル共変性オルガノポリシロキサン、アルカノールアミド、糖エーテル、糖アミド等；両性界面活性剤としては、ベタイン、アミノカルボン酸塩、イミダゾリン誘導体等が挙げられる。

【0027】金属セッケンとしては、12-ヒドロキシステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ミリストン酸亜鉛、ミリストン酸マグネシウム、セチルリン酸亜鉛ナトリウム、セチルリン酸カルシウム、セチルリン酸亜鉛ナトリウム、ラウリン酸亜鉛、ウンデシレン酸亜鉛等が挙げられる。

【0028】ゲル化剤としては、N-ラウロイル-L-グルタミン酸、 $\alpha$ -アージーn-ブチルアミン等のアミ

ノ酸誘導体、デキストリンバルミチン酸エステル、デキストリンステアリン酸エステル、デキストリン2-エチルヘキサン酸バルミチン酸エステル等のデキストリン脂肪酸エステル、ショ糖バルミチン酸エステル、ショ糖ステアリン酸エステル等のショ糖脂肪酸エステル、モノベニジリデンソルビトール、ジベンジリデンソルビトール等のソルビトールのベンジリデン誘導体、ジメチルベンジルドデシルアンモニウムモリロナイトクレー、ジメチルジオクタデシルアンモニウムモリロナイトクレー等の有機変性粘土鉱物等が挙げられる。

【0029】粉体としては、通常の化粧料に使用されるものであれば、その形状（球状、針状、板状、等）や粒子径（煙霧状、微粒子、顔料級等）、粒子構造（多孔質、無孔質等）を問わず、いずれのものも使用することができ、例えば、無機粉体としては、酸化マグネシウム、硫酸バリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、タルク、合成雲母、マイカ、カオリン、セリサイト、白雲母、合成雲母、金雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、ケイ酸、無水ケイ酸、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸ストロンチウム、タンゲスタン酸金属塩、ヒドロキシアバタイト、バーミキュライト、ハイジライト、モンモリロナイト、ゼオライト、セラミックスパウダー、第二リン酸カルシウム、アルミナ、水酸化アルミニウム、窒化ホウ素、窒化ポロン等；有機粉体としては、ポリアミドパウダー、ポリエスチルパウダー、ポリエチレンパウダー、ポリプロピレンパウダー、ポリスチレンパウダー、ポリウレタン、ベンゾグアナミンパウダー、ポリメチルベンゾグアナミンパウダー、テトラフルオロエチレンパウダー、ポリメチルメタクリートパウダー、シリクパウダー、ナイロンパウダー、1-2ナイロン、6ナイロン、スチレン・アクリル酸共重合体、ジビニルベンゼン・スチレン共重合体、ビニル樹脂、尿素樹脂、フェノール樹脂、フッ素樹脂、ケイ素樹脂、アクリル樹脂、メラミン樹脂、エポキシ樹脂、ポリカーボネイト樹脂、微結晶纖維粉体、ラウロイルリジン等；有色顔料としては、酸化鉄、水酸化鉄、チタン酸鉄の無機赤色顔料、マー酸化鉄等の無機褐色系顔料、黄酸化鉄、黄土等の無機黄色系顔料、黒酸化鉄、カーボンブラック等の無機黒色顔料、マンガンバイオレット、コバルトバイオレット等の無機紫色顔料、水酸化クロム、酸化クロム、酸化コバルト、チタン酸コバルト等の無機緑色顔料、紺青、群青等の無機青色系顔料、タール系色素をレーキ化したもの、天然色素をレーキ化したもの、及びこれらの粉体を複合化した複合粉体等；パール顔料としては、酸化チタン被覆雲母、酸化チタン被覆マイカ、オキシ塩化ビスマス、酸化チタン被覆オキシ塩化ビスマス、酸化チタン被覆タルク、魚鱗箔、酸化チタン被覆着色雲母等；金属粉末顔料としては、アルミニウムパウダ

一、カッパーパウダー、ステンレスパウダー等；タル色素としては、赤色3号、赤色104号、赤色106号、赤色201号、赤色202号、赤色204号、赤色205号、赤色220号、赤色226号、赤色227号、赤色228号、赤色230号、赤色401号、赤色505号、黄色4号、黄色5号、黄色202号、黄色203号、黄色204号、黄色401号、青色1号、青色2号、青色201号、青色404号、緑色3号、緑色201号、緑色204号、緑色205号、橙色201号、橙色203号、橙色204号、橙色206号、橙色207号等；天然色素としては、カルミン酸、ラッカイン酸、カルサミン、ブラジリン、クロシン等が挙げられ、これらの粉体を複合化したり、油剤やシリコーン、又はフッ素化合物で表面処理を行なっても良い。

【0030】紫外線防御剤としては、バラメトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル、バラメトキシケイ皮酸イソブロビル、バラメトキシハイドロケイ皮酸ジエタノールアミン塩、ジバラメトキシケイ皮酸-モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、メトキシケイ皮酸オクチル、ジイソブロビルケイ皮酸メチル等のケイ皮酸系紫外線吸収剤、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-硫酸ナトリウム、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2,2',4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-n-オクトキシベンゾフェノン等のベンゾフェノン系紫外線吸収剤、バラアミノ安息香酸、バラアミノ安息香酸エチル、バラアミノ安息香酸ブチル、バラジメチルアミノ安息香酸2-エチルヘキシル、バラアミノ安息香酸グリセリル、バラアミノ安息香酸アミル等の安息香酸系紫外線吸収剤、サリチル酸2-エチルヘキシル、サリチル酸トリエタノールアミン、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸ジプロピレングリコール、サリチル酸メチル、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸フェニル、サリチル酸アミル、サリチル酸ベンジル、サリチル酸イソブロビルベンジル、サリチル酸カリウム等のサリチル酸系紫外線吸収剤、4-ヒドロキシ-4'-メトキシジベンゾイルメタン、4-イソブロビルジベンゾイルメタン、4-メトキシジベンゾイルメタン、4-ヒドロキシジベンゾイルメタン等のジベンゾイルメタン系紫外線吸収剤、メンチル-O-アミノベンゾエート、2-フェニル-ベンズイミダゾール-5-硫酸、2-フェニル-5-メチルベンゾキサゾール、3-(4-メチルベンジリデン)カンフル、2-エチルヘキシル-2-シアノ-3,3-ジフェニルアクリレート、2-エチル-2-シアノ-3,3-ジフェニルアクリレート、2-(2'-ヒドロキシ-5-メチルフェニル)ベンゾトリ

アゾール、アントラニル酸メンチル等のアントラニル酸系紫外線吸収剤、ウロカニン酸エチル等のウロカニン酸系紫外線吸収剤、酸化チタン、酸化ジルコニウム、酸化セリウム、酸化亜鉛等が挙げられる。

【0031】アルコール類としてはエタノール、イソブロパノール等の低級アルコール、グリセリン、ジグリセリン、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ポリエチレングリコール等の多価アルコール等が挙げられる。

【0032】水溶性高分子としては、アラビアゴム、トラガカント、ガラクタン、キャロブガム、グアーガム、カラヤガム、カラギーナン、ベクチン、寒天、アルゲコロイド、トラントガム、ローカストビーンガム、ガラクトマンナン等の植物系高分子、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、ブルラン等の微生物系高分子、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等の動物系高分子、デンプン、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等のデンプン系高分子、メチセルロース、エチセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末のセルロース系高分子、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等のアルギン酸系高分子、ポリビニルメチルエーテル、カルボキシビニルポリマー、アルキル変性カルボキシビニルポリマー等のビニル系高分子、ポリオキシエチレン系高分子、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体系高分子、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリルアミド等のアクリル系高分子、ポリエチレンイミン、カチオンポリマー、ペントナイト、ラボナイト、ヘクトライト等の無機系水溶性高分子等がある。また、この中には、ポリビニルアルコールやポリビニルピロリドン等の皮膜形成剤も含まれる。

【0033】抗菌剤としては、安息香酸、安息香酸ナトリウム、石炭酸、ソルビン酸、ソルビン酸カリウム、バラオキシ安息香酸エステル、バラクロルメタクレゾール、ヘキサクロロフェン、塩化ベンザルコニウム、塩化クロロヘキシジン、トリクロロカルバニリド、感光素、ビス(2-ビリジルチオ-1-オキシド)亜鉛、フェノキシエタノール、イソプロピルメチルフェノール等が挙げられる。

【0034】PH調整剤としては、炭酸カリウム、炭酸水素ナトリウム、炭酸水素アンモニウム等、清涼剤としては、L-メントール、カンフル等が挙げられる。

【0035】本発明の(A)成分以外で用いられる植物抽出物としては、アスパラガス、アカネ、アカブドウ、

アカメガシワ、アケビ、アサ、アサガオ、アズキ、アセンヤク、アマチャ、アマチャヅル、イタドリ、イチジク、イチョウ、イランイラン、ウツボグサ、ウメ、ウワウルシ、ウンシュウミカン、エゾウコギ、エビスグサ、エンジュ、エンドウ、オオバコ、オクラ、オグルマ、オニグルミ、オミナエシ、オランダイチゴ、カキ、カキドウシ、カシュウ、カシュー、カノコソウ、カラスウリ、カリ、ガラナ、キキョウ、キク、キササゲ、ギシギシ、ギムネマ・シルベスター、キンミズヒキ、グアバ、クコ、クズ、クスノキ、クリ、ケイケットウ、ゲッケイジユ、ケイヒ、ゴショイチゴ、コショウ、コーヒー、ゴマノハグサ、コロンボ、ザンカ、サンショウ、サフラン、サクラ、ザクロ、サンズコン、サンベンズ、シオン、ショウブ、スイカ、ステビア、スマモ、セイヨウキズタ、セイヨウナシ、セイヨウノコギリソウ、セイヨウネズ、セイヨウワサビ、セキショウ、セリ、セネガ、センナ、ダイオウ、ダイダイ、タマリン、タラノキ、タンボポ、チコリ、チョウジ、チョウセンゴミシ、チョレイ、ツキミソウ、ツボクサ、ツユクサ、ツルナ、テウチグルミ、トウガン、トチュウ、トロロアオイ、ナズナ、ナツミカン、ナンテン、ニガキ、ノコギリソウ、パインアップル、ハイビスカス、パパイヤ、バジル、ハス、ハダカムギ、ヒオウギ、ピーナツ、ヒキオコシ、ヒシ、ピスタチオ、ヒバ、ヒメマツタケ、ビャクシ、ビワ、フキタシボボ、フシノキ、フジバカマ、ブルーベリー、ボウフウ、ホオズキ、ホオノキ、ボケ、マイカイ、マオウ、マンゴー、マンネンタケ、ミシマサイコ、ミソハギ、ミツバ、ミモザ、メリロート、メロン、モクレン、モモルデイカ・グロスペノリィ、モロヘイヤ、モヤシ、ヤクチ、ヤクモソウ、ヤグルマソウ、ヤシ、ヤシャジツ、ヤドリギ、ヤナギタデ、ヤマゴボウ、ヤマモモ、ユズリハ、ヨモギ、ライムギ、ラン、リュウガン、リング、レイシ、レンギョウ等が挙げられる。

【0036】美白剤としては、グラブリジン、グラブレ

ン、リクイリチン、イソリクイリチン、ハイドロキノン及びその誘導体、レゾルシン及びその誘導体、グルタチオン等、血行促進剤としては、ノニル酸フェニルアミド、カアサイシン、ジングロン、カンタリスチンキ、イクタモール、 $\alpha$ -ボルネオール、イノシトールヘキサンコチネート、シクランデレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ペラバミル、アーオリザノール、セファランチン等、皮膚収斂剤としてはタンニン酸等、抗脂漏剤としてはイオウ、チアントロール等、抗炎症剤としては、メフェナム酸、フェニルブタゾン、インドメタシン、イブプロフェン、ケトプロフェン、アラントイン、グアイアズレン、 $\epsilon$ -アミノカプロン酸、ジクロフェナクナトリウム、トラネキサム酸等、活性酸素除去剤としては、スーパーオキシドディスクターゼ、ビルルビン、クエルセチン、クエルシトリン、カテキン、カテキン誘導体、没食子酸及びその誘導体等、抗酸化剤としては、ジブチルヒドロキシトルエン及びブチルヒドロキシアニソール等、酵素としてはリバーゼ、パパイン等が挙げられる。

### 【0037】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明を更に詳細に説明するが、本発明はこれらになんら制約されるものではない。

### 【0038】参考例1 植物抽出物の製造

オタネニンジン、オオムギに、含水濃度50%( $v/v$ )エチルアルコール又は50%( $v/v$ )1,3-ブチレングリコールを加え、室温にて3日間抽出を行った後沪過してエキスを得た。

### 【0039】実施例1（本発明品1～4）、比較例1～5

表1に示す組成及び下記製法で乳液を調製し、その肌荒れ改善効果を調べた。この結果を表2に示す。

### 【0040】（組成）

#### 【表1】

成 分 (%)	本発明品						比較例			
	1,2	2,4	6,8	7,9	9,10	11,12	1,2	3	4	5
(1) スクワラン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
(2) ワセリン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
(3) ミツロウ	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6
(4) ソルビタンセスキオレイン酸エチル	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
(5) ポリオキシエチレン(20, E.O) オレイルエーテル	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
(6) 1,3-ブチレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
(7) 参考例1の植物抽出物*1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	—	—	—	—
(8) テアニン*2	0.6	—	0.5	—	0.5	—	—	0.5	—	—
(9) 腺母抽出物*3	—	1.0	—	1.0	—	1.0	—	—	1.0	—
(10) バルミアン酸レチノール*4	—	—	0.2	0.2	—	—	—	—	—	—
(11) グリチルレチン酸ステアリル*5	—	—	—	—	0.5	0.5	—	—	—	—
(12) エチルアルコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
(13) 防腐剤	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
(14) 香料	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
(15) キサンタンガム(2%水溶液)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
(16) 精製水	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量	残量

\*1 参考例1で調達したもの

本発明1,2,6,7,8,11,比較例1:オットンガム抽出物(50%)/ホウズキ抽出物

本発明2,4,6,8,10,12,比較例2:ホウズキ抽出物(50%),1,3-ブチレングリコール抽出物

\*2 太陽化粧社製

\*3 丸善乳業社製

\*4 日本ロシュ社製

\*5 丸善乳業社製

## 【0041】(製法)

- A. (6)、(8)、(12)及び(16)の各成分を加熱混合し、70℃に保つ。
- B. (1)～(5)、(10)及び(11)、(13)の各成分を加熱混合し、70℃に保つ。
- C. 上記Bを先のAに加えて乳化混合し、更に、成分(15)、次いで(7)、(9)及び(14)を加えて混合し、30℃まで冷却して乳液を得た。

## 【0042】(試験方法) 25～50歳の健常人10名

肌状態スコア:

[スコア] [状態]

- 1 肌の皮溝が不鮮明であり、角質のはがれが認められる。
- 2 肌の皮溝がやや不鮮明であるかまたは一方向性が強い。
- 3 肌の皮溝は認められるが、浅いかまたは一方向性が強い。
- 4 肌の皮溝は認められるかまたはやや網目状である。
- 5 肌の皮溝がはっきり認められるかまたはきれいな網目状である。

## 【0044】(結果)

を一群として、実験的な荒れ肌を惹起する前の肌状態をマイクロスコープカメラで撮影し、下記基準によりそのスコアを求めた。実験的な荒れ肌は、上腕屈折部をエーテル、アセトン(1:1)混液で処理することにより惹起した。更に、その後は、7日間にわたって毎日、朝と夜の2回被験乳液を塗布し、荒れ肌惹起の1、3、5及び7日後に前記と同様肌状態のスコアを求めた。

## 【0043】

【表2】

肌 状 態 ス コ ア					
	施術前	1日後	3日後	5日後	7日後
本発明品1	3.6	1.2	2.8	3.5	4.0
本発明品2	3.7	1.3	2.9	3.6	4.2
本発明品3	3.5	1.4	2.8	3.6	4.2
本発明品4	3.6	1.3	2.9	3.7	4.3
本発明品5	3.7	1.4	3.2	4.0	4.7
本発明品6	3.6	1.5	3.3	4.1	4.8
本発明品7	3.5	1.3	3.2	4.0	4.6
本発明品8	3.6	1.5	3.3	4.1	4.7
本発明品9	3.7	1.3	3.2	4.0	4.7
本発明品10	3.6	1.4	3.3	4.1	4.8
本発明品11	3.5	1.3	3.2	4.0	4.6
本発明品12	3.6	1.4	3.3	4.1	4.7
比較例1	3.6	1.4	2.1	2.5	2.9
比較例2	3.4	1.5	2.0	2.4	2.9
比較例3	3.5	1.3	2.2	2.5	3.0
比較例4	3.6	1.2	2.0	2.4	2.8
比較例5	3.6	1.1	1.9	2.1	2.6

【0045】表2の結果に示されるように、本発明品1～12に代表される植物抽出物と保湿剤、細胞賦活剤の薬効剤から選ばれる一種とを組み合わせた乳液、また更に、パルミチン酸レチノール、グリチルレチン酸ステアリルを含有する乳液はこれらを皮膚に適用することによ

り、肌荒れ改善効果を示すことが明らかになった。

#### 【0046】実施例2

化粧水：次に示す処方及び下記製法で化粧水を調製した。

(処方)	(%)
(1) グリセリン	5.0
(2) 1,3-ブチレングリコール	6.5
(3) ポリオキシエチレン(20E.O.)ソルビタンモノラウリン酸エステル	1.2
(4) エチルアルコール	8.0
(5) アルテア抽出物*1	2.0
(6) オウゴン抽出物*2	2.0
(7) 2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-硫酸ナトリウム	0.5
(8) グリチルリチン酸ジカリウム*3	1.0
(9) D-パンテノール*4	0.5
(10) 乳酸*5	0.5
(11) 防腐剤	適量
(12) 香料	適量
(13) 精製水	残量

\*1 香栄興業社製  
 \*2 一丸ファルコス社製  
 \*3 丸善製薬社製  
 \*4 日本ロシュ社製  
 \*5 和光純薬社製

#### 【0047】(製法)

- A. 成分(3)、(4)、(9)、(11)及び(12)を混合溶解する。  
 B. 成分(1)、(2)、(5)～(8)、(10)及

び(13)を混合溶解する。

C. AとBを混合して均一にし、化粧水を得た。

#### 【0048】実施例3

化粧水：次に示す処方及び下記製法で化粧水を調製し

た。

(处方)	(%)
(1) グリセリン	7.0
(2) 1, 3-ブチレングリコール	3.5
(3) ポリオキシエチレン(20E.O.)ソルビタン モノラウリン酸エステル	1.2
(4) エチルアルコール	7.0
(5) シラカバ抽出物*1	1.0
(6) マロニエ抽出物*2	1.0
(7) 醋酸-d1- $\alpha$ -トコフェロール*3	1.0
(8) L-セリン*4	0.3
(9) ピフィズス菌抽出物*5	2.0
(10) 防腐剤	適量
(11) 香料	適量
(12) 精製水	残量

\*1 丸善製薬社製  
\*2 丸善製薬社製  
\*3 エーザイ社製  
\*4 味の素社製  
\*5 三省製薬社製

## 【0049】(製法)

A. 成分(3)、(4)、(7)、(10)及び(11)を混合溶解する。

B. 成分(1)、(2)、(5)、(6)、(8)、

(9)及び(12)を混合溶解する。

C. AとBを混合して均一にし、化粧水を得た。

## 【0050】実施例4

乳液：次に示す処方及び下記製法で乳液を調製した。

(处方)	(%)
(1) ポリオキシエチレン(10E.O.)ソルビタン モノステアレート	1.0
(2) ポリオキシエチレン(60E.O.)ソルビット テトラオレエート	0.5
(3) グリセリルモノステアレート	1.0
(4) ステアリン酸	0.5
(5) ベヘニルアルコール	0.5
(6) スクワラン	8.0
(7) ブナの芽抽出物*1	0.02
(8) ブドウ抽出物*2	0.02
(9) オオムギ抽出物*3	0.02
(10) マルメロ抽出物*4	0.05
(11) トレハロース*5	0.1
(12) ピロリドンカルボン酸ナトリウム*6	0.05
(13) グリチルレチン酸ステアリル*7	0.1
(14) 防腐剤	0.1
(15) カルボキシビニルポリマー	0.1
(16) 水酸化ナトリウム	0.05
(17) エチルアルコール	5.0
(18) 精製水	残量
(19) 香料	適量

\*1 ガテホセ社製  
\*2 一丸ファルコス社製  
\*3 参考例1で製造したもの  
\*4 香栄興業社製

- \* 5 和光純薬社製
- \* 6 味の素社製
- \* 7 丸善製薬社製

## 【0051】(製法)

- A. 成分(11)、(12)、(15)～(18)を加熱混合し、70℃に保つ。  
 B. 成分(1)～(6)、(13)及び(14)を加熱混合し、70℃に保つ。

C. BにAを加えて混合し、均一に乳化する。  
 D. Cを冷却後(7)～(10)、(19)を加え、均一に混合して乳液を得た。

## 【0052】実施例5

乳液：次に示す処方及び下記製法で乳液を調製した。

(处方)	(%)
(1) ポリオキシエチレン(10E.O.)ソルビタンモノステアレート	1.0
(2) ポリオキシエチレン(60E.O.)ソルビットテトラオレエート	0.5
(3) グリセリルモノステアレート	0.8
(4) ステアリン酸	1.3
(5) ベヘニルアルコール	0.5
(6) スクワラン	7.0
(7) サンザシ抽出物*1	0.05
(8) カンゾウ抽出物*2	2.0
(9) タイソウ抽出物*3	1.0
(10) バラメトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシリ	0.5
(11) ローヤルゼリー抽出物*4	1.0
(12) 防腐剤	0.1
(13) カルボキシビニルポリマー	0.1
(14) 水酸化ナトリウム	0.05
(15) エチルアルコール	4.0
(16) 精製水	残量
(17) 香料	適量
*1 丸善製薬社製	
*2 丸善製薬社製	
*3 丸善製薬社製	
*4 丸善製薬社製	

## 【0053】(製法)

- A. 成分(13)～(16)を加熱混合し、70℃に保つ。  
 B. 成分(1)～(6)、(10)及び(12)を加熱混合し、70℃に保つ。

C. BにAを加えて混合し、均一に乳化する。  
 D. Cを冷却後、成分(7)～(9)、(11)及び(17)を加え、均一に混合して乳液を得た。

## 【0054】実施例6

軟膏：次に示す処方及び下記製法で軟膏を調製した。

(处方)	(%)
(1) ステアリン酸	18.0
(2) セタノール	4.0
(3) ゴマ油*1	2.0
(4) トリエタノールアミン	2.0
(5) グリセリン	5.0
(6) ニンジン抽出物*2	0.1
(7) ダイズ抽出物*3	0.1
(8) オタネニンジン抽出物*4	0.1
(9) サリチル酸*5	0.5
(10) グリシン*6	0.5
(11) 精製水	残量
*1 日清精油社製	

- \* 2 丸善製薬社製
- \* 3 一丸ファルコス社製
- \* 4 参考例1で製造したもの
- \* 5 吉富製薬社製
- \* 6 味の素社製

## 【0055】(製法)

- A. 成分(4)、(5)及び(11)の一部を加熱混合し、75°Cに保つ。  
 B. 成分(1)～(3)及び(9)を加熱混合し、75°Cに保つ。

(处方)

- (1) ステアリン酸
- (2) セタノール
- (3) トリエタノールアミン
- (4) グリセリン
- (5) ノイバラ抽出物\*1
- (6) アシタバ抽出物\*2
- (7) ボタンビ抽出物\*3
- (8) ピフィズス菌抽出物\*4
- (9) L-アスコルビン酸硫酸エステル-2-ナトリウム\*5
- (10) 精製水

\* 1 丸善製薬社製

\* 2 一丸ファルコス社製

\* 3 一丸ファルコス社製

\* 4 寿ケミカル社製

\* 5 日光ケミカルズ社製

## 【0057】(製法)

- A. 成分(3)、(4)、(9)及び(10)の一部を加熱混合し、75°Cに保つ。  
 B. 成分(1)及び(2)を加熱混合し、75°Cに保つ。  
 C. AをBに徐々に加える。

(处方)

- (1) カルボキシビニルポリマー
- (2) トリエタノールアミン
- (3) 1,3-ブチレングリコール
- (4) ライム抽出物\*1
- (5) ウィッヂヘーゼル抽出物\*2
- (6) グレープフルーツ抽出物\*3
- (7) イノシトール\*4
- (8) 精製水

\* 1 丸善製薬社製

\* 2 ドラゴコ社製

\* 3 丸善製薬社製

\* 4 第一製薬社製

## 【0059】(製法)

- A. 成分(1)及び(3)～(8)を混合溶解する。  
 B. Aに成分(2)を加え、混合して均一にし、ゲル軟膏を得た。

(处方)

C. AをBに徐々に加える。

D. Cを冷却しながら成分(11)の残部で溶解した(6)～(8)及び(10)を加え、軟膏を得た。

## 【0056】実施例7

軟膏：次に示す处方及び下記製法で軟膏を調製した。

	(%)
(1)	15.0
(2)	7.0
(3)	2.0
(4)	7.0
(5)	1.0
(6)	1.0
(7)	1.0
(8)	0.1
(9)	0.5
(10)	残量

D. Cを冷却しながら(10)の残部で溶解した(5)～(8)を加え、軟膏を得た。

## 【0058】実施例8

ゲル軟膏：次に示す处方及び下記製法でゲル軟膏を調製した。

	(%)
(1)	1.0
(2)	1.0
(3)	10.0
(4)	0.01
(5)	0.02
(6)	0.02
(7)	0.001
(8)	残量

## 【0060】実施例9

ゲル軟膏：次に示す处方及び下記製法でゲル軟膏を調製した。

(处方)

(1) カルボキシビニルポリマー	1. 0
(2) トリエタノールアミン	0. 8
(3) 1, 3-ブチレングリコール	10. 0
(4) カミツレ抽出物* 1	0. 5
(5) アロエ抽出物* 2	0. 5
(6) クマザサ抽出物* 3	0. 5
(7) ヘチマ抽出物* 4	3. 0
(8) ムチン* 5	0. 5
(9) α-グルコシルルチン* 6	0. 02
(10) 精製水	残量

\* 1 A. M. I 社製  
 \* 2 丸善製薬社製  
 \* 3 丸善製薬社製  
 \* 4 一丸ファルコス社製  
 \* 5 一丸ファルコス社製  
 \* 6 東洋精糖社製

## 【0061】(製法)

A. 成分(1)及び(3)～(10)を混合溶解する。  
 B. Aに成分(2)を加え、混合して均一にし、ゲル軟膏を得た。

(处方)	(%)
(1) ポリオキシエチレン(40E.O.)モノステアレート	2. 0
(2) グリセリンモノステアレート(自己乳化型)	5. 0
(3) ステアリン酸	5. 0
(4) ベヘニルアルコール	0. 5
(5) スクワラン	15. 0
(6) イソオクタン酸セチル	5. 0
(7) 1, 3-ブチレングリコール	5. 0
(8) ソウハクヒ抽出物* 1	0. 2
(9) サルビア抽出物* 2	0. 2
(10) ユキノシタ抽出物* 3	0. 2
(11) トルメンチラ抽出物* 4	0. 5
(12) グルコース* 5	0. 02
(13) 尿素* 6	0. 2
(14) 酢酸レチノール* 7	0. 5
(15) 防腐剤	適量
(16) 精製水	残量
(17) 香料	適量

\* 1 丸善製薬社製  
 \* 2 丸善製薬社製  
 \* 3 一丸ファルコス社製  
 \* 4 丸善製薬社製  
 \* 5 関東化学社製  
 \* 6 関東化学社製  
 \* 7 日本ロシュ社製

## 【0063】(製法)

A. 成分(1)～(6)、(14)及び(15)を70℃にて加熱溶解する。  
 B. 成分(7)、(12)、(13)及び(16)を70℃に加熱する。

## 【0062】実施例10

クリーム：次に示す処方及び下記製法でクリームを調製した。

C. AをBに加える。

D. Cに成分(8)～(11)及び(17)を加え、冷却してクリームを得た。

## 【0064】実施例11

クリーム：次に示す処方及び下記製法でクリームを調製

した。

(处方)	(%)
(1) ポリオキシエチレン(40E.O.)モノステアレート	2.0
(2) グリセリンモノステアレート(自己乳化型)	2.0
(3) ステアリン酸	7.0
(4) ベヘニルアルコール	0.5
(5) スクワラン	7.0
(6) イソオクタン酸セチル	5.0
(7) マカデミアナッツ油*1	3.0
(8) 1,3-ブチレングリコール	8.0
(9) オウバク抽出物*2	0.3
(10) シイタケ抽出物*3	0.2
(11) クレソン抽出物*4	0.3
(12) ラーリノレン酸*5	0.3
(13) テアニン*6	0.5
(14) 防腐剤	適量
(15) 精製水	残量
(16) 香料	適量

\*1 日本サーファクタント社製

\*2 一丸ファルコス社製

\*3 丸善製薬社製

\*4 丸善製薬社製

\*5 出光石油化学社製

\*6 太陽化学社製

#### 【0065】(製法)

- A. 成分(1)～(7)、(12)及び(14)を70℃にて加熱溶解する。
- B. 成分(8)、(13)及び(15)を70℃に加熱する。
- C. AをBに加える。
- D. Cに成分(9)～(11)及び(16)を加え、冷却してクリームを得る。

(处方)	(%)
(1) ラノリン	7.0
(2) 流動パラフィン	5.0
(3) ステアリン酸	2.0
(4) セタノール	1.0
(5) オリーブ油*1	3.0
(6) グリセリン	5.0
(7) トリエタノールアミン	1.0
(8) カルボキシメチルセルロース	0.7
(9) 精製水	残量
(10) マイカ	15.0
(11) タルク	6.0
(12) 酸化チタン	3.0
(13) 着色顔料	6.0
(14) 紅茶抽出物*2	0.1
(15) キュウリ抽出物*3	0.1
(16) キウイ抽出物*4	0.1
(17) グルタミン酸*4	0.05

【0066】実施例2、3の化粧水、実施例4、5の乳液、実施例6、7の軟膏、実施例8、9のゲル軟膏及び実施例10、11のクリームはいずれも経時安定性に優れ、これらを皮膚に適用することにより、保湿及び肌荒れ改善効果、皮膚の老化等を防止するものであった。

#### 【0067】実施例12

リキッドファンデーション：次に示す处方及び下記製法でリキッドファンデーションを調製した。

(%)
7.0
5.0
2.0
1.0
3.0
5.0
1.0
0.7
残量
15.0
6.0
3.0
6.0
0.1
0.1
0.1
0.05

(18) カフェイン*5	0.005
(19) 塩酸ピリドキシン*6	0.01
(20) パラメトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシリ	5.5
(21) 香料	適量
(22) 防腐剤	適量
*1 日本油脂社製	
*2 一丸ファルコス社製	
*3 一丸ファルコス社製	
*4 味の素社製	
*5 和光純薬社製	
*6 和光純薬社製	

## 【0068】(製法)

- A. 成分(1)～(5)、(20)及び(22)を混合溶解する。  
 B. Aに成分(10)～(13)を加え、均一に混合する。  
 C. 成分(6)～(9)、及び(17)～(19)を均一に溶解し、70℃に保つ。

(处方)	(%)
(1) ラノリン	5.0
(2) 流動パラフィン	8.0
(3) ステアリン酸	2.0
(4) セタノール	2.0
(5) グリセリン	5.0
(6) トリエタノールアミン	1.0
(7) カルボキシメチルセルロース	0.7
(8) 精製水	残量
(9) マイカ	15.0
(10) タルク	5.0
(11) 酸化チタン	3.0
(12) 着色顔料	8.0
(13) イラクサ抽出物*1	0.01
(14) キンギンカ抽出物*2	0.01
(15) ローズマリー抽出物*3	0.01
(16) ゲンノショウコ抽出物*4	0.5
(17) ラクトフェリン*5	0.05
(18) 胎盤抽出物*6	0.01
(19) 香料	適量
(20) 防腐剤	適量
*1 丸善製薬社製	
*2 長岡香料社製	
*3 丸善製薬社製	
*4 丸善製薬社製	
*5 森永乳業社製	
*6 ニチレイ社製	

## 【0070】(製法)

- A. 成分(1)～(4)及び(20)を混合溶解する。  
 B. Aに成分(9)～(12)を加え、均一に混合する。  
 C. 成分(5)～(8)を均一に溶解し、70℃に保

D. BにCを添加して、均一に乳化する。

E. Dを冷却後、成分(14)～(16)及び(21)を添加してリキッドファンデーションを得た。

## 【0069】実施例13

リキッドファンデーション：次に示す処方及び下記製法でリキッドファンデーションを調製した。

つ。

D. BにCを添加して、均一に乳化する。

E. Dを冷却後、成分(13)～(19)を添加してリキッドファンデーションを得た。

## 【0071】実施例14

日焼け止め用乳液：次に示す処方及び下記製法で日焼け	止め用乳液を調製した。
(処方)	(%)
(1) ステアリン酸	2.0
(2) セタノール	1.0
(3) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン (20E.O)	0.5
(4) セスキオレイン酸ソルビタン	0.5
(5) パラメトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル	8.0
(6) 2-エチルヘキサン酸セチル	12.0
(7) 1,3-ブチレングリコール	10.0
(8) カルボキシビニルポリマー	0.2
(9) トリエタノールアミン	0.5
(10) ウーロン茶抽出物*1	0.5
(11) 海藻抽出物*2	1.0
(12) 小麦胚芽抽出物*3	0.5
(13) コンドロイチン硫酸ナトリウム*4	0.05
(14) エラスチン*5	0.05
(15) 精製水	残量
(16) L-アスコルビン酸リン酸エステルマグネシウム*6	1.0
(17) 防腐剤	適量
(18) 酸化チタン	3.0
(19) 香料	適量

\*1 丸善製薬社製  
\*2 丸善製薬社製  
\*3 成和化成社製  
\*4 生化学工業社製  
\*5 三省製薬社製  
\*6 和光純薬社製

## 【0072】(製法)

A. 成分(1)～(6)、(17)及び(18)を加熱混合し、75℃に保つ。

B. 成分(7)～(9)、(15)及び(16)を加熱混合し、75℃に保つ。

C. AをBに徐々に加える。

D. Cを冷却しながら(10)～(14)及び(19)を加え、日焼け止め用乳液を得た。

## 【0073】実施例15

日焼け止め用乳液：次に示す処方及び下記製法で日焼け止め用乳液を調製した。

(処方)	(%)
(1) ステアリン酸	2.0
(2) セタノール	1.0
(3) モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン (20E.O)	0.5
(4) セスキオレイン酸ソルビタン	0.5
(5) パラメトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル	8.0
(6) 4-テーブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン	2.0
(7) 2-エチルヘキサン酸セチル	12.0
(8) 1,3-ブチレングリコール	10.0
(9) カルボキシビニルポリマー	0.2
(10) トリエタノールアミン	0.5
(11) ヨクイニン抽出物*1	0.1
(12) ゼニアオイ抽出物*2	2.0
(13) ボダイジュ抽出物*3	0.1
(14) コラーゲン*4	0.05

(15) アデノシン三リン酸二ナトリウム*	5	0.1
(16) 精製水		残量
(17) 防腐剤		適量
(18) 酸化チタン		3.0
(19) 香料		適量
*1 丸善製薬社製		
*2 A.M.I 社製		
*3 丸善製薬社製		
*4 高研社製		
*5 第一製薬社製		

## 【0074】(製法)

- A. 成分(1)～(7)、(17)及び(18)を加熱混合し、75℃に保つ。  
 B. 成分(8)～(10)及び(16)を加熱混合し、75℃に保つ。  
 C. AをBに徐々に加える。  
 D. Cを冷却しながら成分(11)～(15)及び(19)を加え、日焼け止め用乳液を得た。

## (处方)

(1) ポリビニルアルコール	20.0
(2) エチルアルコール	20.0
(3) グリセリン	5.0
(4) カオリン	6.0
(5) メリッサ抽出物*	1.0
(6) シソ抽出物*	1.0
(7) ブクリョウ抽出物*	1.0
(8) エストラジオール*	0.002
(9) ソルビトール*	0.01
(10) 防腐剤	0.2
(11) 香料	0.1
(12) 精製水	残量
*1 丸善製薬社製	
*2 丸善製薬社製	
*3 長岡香料社製	
*4 シグマ社製	
*5 和光純薬社製	

## 【0077】(製法)

- A. 成分(1)、(3)、(4)、(8)、(9)及び(12)を混合し、70℃に加熱し、攪拌する。  
 B. 成分(2)及び(10)を混合する。  
 C. 上記Bを先のAに加え、混合した後、冷却して成分

## (处方)

(1) ポリビニルアルコール	20.0
(2) エチルアルコール	20.0
(3) グリセリン	5.0
(4) カオリン	6.0
(5) カワラヨモギ抽出物*	0.05
(6) ドクダミ抽出物*	0.1
(7) シャクヤク抽出物*	0.05
(8) 加水分解ケラチン*	0.2

【0075】実施例12、13のリキッドファンデーション及び実施例14、15の日焼け止め用乳液は、いずれも経時安定性に優れ、これらを皮膚に適用することにより、保湿及び肌荒れ改善効果や皮膚の老化等を防止するものであった。

## 【0076】実施例16

パック：次に示す処方及び下記製法でパックを調製した。

	(%)
(1) ポリビニルアルコール	20.0
(2) エチルアルコール	20.0
(3) グリセリン	5.0
(4) カオリン	6.0
(5) カワラヨモギ抽出物*	1.0
(6) ドクダミ抽出物*	1.0
(7) シャクヤク抽出物*	1.0
(8) 加水分解ケラチン*	0.002
(9) ソルビトール*	0.01
(10) 防腐剤	0.2
(11) 香料	0.1
(12) 精製水	残量
*1 丸善製薬社製	
*2 丸善製薬社製	
*3 長岡香料社製	
*4 シグマ社製	
*5 和光純薬社製	

(5)～(7)及び(11)を均一に分散してパックを得た。

## 【0078】実施例17

パック：次に示す処方及び下記製法でパックを調製した。

	(%)
(1) ポリビニルアルコール	20.0
(2) エチルアルコール	20.0
(3) グリセリン	5.0
(4) カオリン	6.0
(5) カワラヨモギ抽出物*	0.05
(6) ドクダミ抽出物*	0.1
(7) シャクヤク抽出物*	0.05
(8) 加水分解ケラチン*	0.2

(9) リンゴ酸*5	0.1
(10) エルゴカルシフェロール*6	0.1
(11) 防腐剤	0.2
(12) 香料	0.1
(13) 精製水	残量

\*1 丸善製薬社製  
 \*2 一丸ファルコス社製  
 \*3 稲畑香料社製  
 \*4 成和化成社製  
 \*5 和光純薬社製  
 \*6 シグマ社製

## 【0079】(製法)

- A. 成分(1)、(3)、(4)、(9)及び(13)を混合し、70℃に加熱し、攪拌する。  
 B. 成分(2)、(10)及び(11)を混合する。  
 C. 上記Bを先のAに加え、混合した後、冷却して(5)～(8)、(12)を均一に分散してパックを得た。

## (处方)

(1) ステアリン酸	10.0
(2) バルミチン酸	8.0
(3) ミリスチン酸	12.0
(4) ラウリン酸	4.0
(5) オレイルアルコール	1.5
(6) 精製ラノリン	1.0
(7) 香料	0.1
(8) 防腐剤	0.2
(9) グリセリン	18.0
(10) 水酸化カリウム	6.0
(11) ホップ抽出物*1	0.5
(12) モモ抽出物*2	0.5
(13) ウイキョウ抽出物*3	0.5
(14) ヒアルロン酸ナトリウム*4	0.05
(15) パントテニルエチルエーテル*5	0.05
(16) ジバルミチン酸レーエスコルビル*6	0.05
(17) 精製水	残量

\*1 丸善製薬社製  
 \*2 丸善製薬社製  
 \*3 丸善製薬社製  
 \*4 キューピー社製  
 \*5 シグマ社製  
 \*6 シグマ社製

## 【0082】(製法)

- A. 成分(9)、(10)、(15)及び(17)を混合し、70℃に加熱する。  
 B. 成分(1)～(6)、(8)及び(16)を混合し、70℃に加熱する。  
 C. 上記Bを先のAに加え、しばらく70℃に保ち、反

## (处方)

(1) ステアリン酸	(%)
(1) ステアリン酸	10.0

【0080】実施例16、17のパックは、経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより保湿効果及び肌荒れ改善効果に優れ、皮膚のきめを整え、透明感のある美しい肌にするものであった。

## 【0081】実施例18

洗浄料：次に示す処方及び下記製法で洗浄料を調製した。

(%)
10.0
8.0
12.0
4.0
1.5
1.0
0.1
0.2
18.0
6.0
0.5
0.5
0.5
0.05
0.05
0.05
残量

応が終了後、50℃まで冷却し、成分(7)及び(11)～(14)を加え、冷却して洗浄料を得た。

## 【0083】実施例19

洗浄料：次に示す処方及び下記製法で洗浄料を調製した。

(%)
10.0

(2) バルミチン酸	8.0
(3) ミリスチン酸	12.0
(4) ラウリン酸	4.0
(5) オレイルアルコール	1.5
(6) 精製ラノリン	1.0
(7) 香料	0.1
(8) 防腐剤	0.2
(9) グリセリン	18.0
(10) 水酸化カリウム	6.0
(11) セイヨウハッカ抽出物*1	0.2
(12) 緑茶抽出物*2	0.5
(13) コンフリー抽出物*3	0.5
(14) 貝殻抽出物*4	0.05
(15) 精製水	残量

\*1 丸善製薬社製  
 \*2 一丸ファルコス社製  
 \*3 一丸ファルコス社製  
 \*4 丸善製薬社製

## 【0084】(製法)

- A. 成分(9)、(10)及び(15)を混合し、70℃に加熱する。  
 B. 成分(1)～(6)及び(8)を混合し、70℃に加熱する。  
 C. 上記Bを先のAに加え、しばらく70℃に保ち、反応が終了後、50℃まで冷却し、成分(7)及び(11)～(14)を加え、冷却して洗浄料を得た。  
 【0085】実施例19、20の洗浄料は、経時安定性に優れ、皮膚に適用することにより、皮膚のきめを整

え、美しい肌にするものであった。

## 【0086】

【発明の効果】本発明によれば、特定の植物抽出物と保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上を含有することにより、保湿及び肌荒れ改善、皮膚の老化防止等に有効であり、更に特定の薬効剤を含有することにより、更に優れた効果を有するものである。従って、本発明の組成物は美容や医療において極めて有用なものである。

## 【手続補正書】

【提出日】平成11年7月13日(1999.7.1)

3)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項1】次の成分(A)及び(B)；

(A) ブクリョウ、ニンジン、オタネニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ、イラクサ、ウイキョウ、ウイッシュヘーゼル、ウコン、コガネバナ、キハダ、オトギリソウ、イネ、イブキトラノオ、カミツレ、カワラヨモギ、キウイ、キュウリ、スイカズラ、クララ、ブドウ、クチナシ、クレソン、コンフリー、サボンソウ、サボテン、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スキナ、ボダイジュ、サルビア、センブリ、センキュウ、クワ、ダイズ、タチジャコウソウ、トウキ、トウキンセンカ、ドクダミ、ナツメ、ニワトコ、バセリ、ハトムギ、ブッチャーズブルーム、ヘチマ、ガマ、ホップ、マロニ

エ、メリッサ、モモ、ユキノシタ、キイチゴ、ラベンダー、レンゲ、バラ、ノイバラ、ローズマリー、カンゾウ、チャ、ユリ、オオムギ、コムギ、アシタバ、アンズ、カラスマギ、トウモロコシ、ゼニアオイ、ムラサキ、トウガラシ、ショウガ、レタス、レモン、マルメロ、オレンジ、イチゴ、ベニバナ、ブナ、ゲンチアナ、リンドウ、ハッカ、ミドリハッカ、セイヨウハッカ、ムクロジ、ユーカリ、ウスベニアオイ、クマザサ、ウスバサイシン、ケイリンサイシン、オドリコソウ、ゴボウ、ニンニク、ハウチワマメ、イナゴマメ、マツ、キヅタ、ヤグルマソウ、ワレモコウ、コボタンヅル、シモツケ、アポカド、トウチュウカソウ、カイソウ、グレープフルーツ、ブルーン、ライム、ゲンノショウコ、シイタケ、オノニス、トルメンチラ、ユズ、オウレン、ヒノキ、ボタン、オオバジャノヒゲ、オリーブ、ヒマワリ、ホホバ、マカデミアナッツ、メドウホーム、ツバキ、アーモンド、カカオ、ゴマ、シア、ボラージから選ばれる一種又は二種以上の植物抽出物

(B) 保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又

は二種以上を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項2】 保湿剤がヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸、デルマタン硫酸、ヘパラン硫酸、ヘパリン及びケラタン硫酸等のムコ多糖類またはそれらの塩、コラーゲン、エラスチン、フィプロネクチン、ケラチン等のタンパク質またはそれらの誘導体、加水分解物並びにそれらの塩、グリシン、アラニン、バリン、イソロイシン、セリン、スレオニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、アスパラギン、グルタミン、リジン、ヒドロキシリジン、アルギニン、システイン、シスチン、メチオニン、フェニルアラニン、チロシン、トリプトファン、ヒスチジン、プロリン、ヒドロキシプロリン、オルチニン、シトルリン、テアニン等のアミノ酸及びそれらの誘導体並びにそれらの塩、あるいはビロリドンカルボン酸等のアミノ酸誘導体またはその塩、ソルビトール、エリスリトール、マルトース、マルチトール、キシリトール、キシロース、トレハロース、イノシトール、グルコース、マンニトール、ペンタエリスリトール、果糖、蔗糖およびそのエステル、デキストリン及びその誘導体、ハチミツ、黒砂糖抽出物等の多価アルコール又は糖類、ムチン、パンテノール及びその誘導体並びにそれらの塩、尿素、リン脂質、糖脂質、セラミドから選ばれる一種又は二種以上である請求項1記載の皮膚外用剤。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項3

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項3】 細胞賦活剤が、デオキシリボ核酸及びその塩、アデノシン三リン酸、アデノシン二リン酸、アデノシン一リン酸等のアデニル酸誘導体及びそれらの塩、リボ核酸及びその塩、サイクリックAMP、サイクリックGMP、フラビンアデニンヌクレオチド、グアニン、アデニン、シトシン、チミン、キサンチン及びそれらの誘導体であるカフェイン、テオフィリン並びにそれらの塩から選ばれる核酸関連物質；ブタ、ウシ等の胎盤抽出物、幼牛血液抽出液、血清除蛋白抽出物、脾臓抽出物、トリ等の卵成分、鶏冠抽出物、魚肉抽出物、イカスミ等軟体動物抽出物、貝殻抽出物、貝肉抽出物、ローヤルゼリー、シルクプロテイン及びその分解物又はそれらの誘導体、ヘモグロビン又はその分解物、ラクトフェリン又はその分解物等、哺乳類、鳥類、魚類、軟体動物類、甲殻類、貝類、昆蟲類等の動物由来の抽出物；酵母抽出物、乳酸菌抽出物、ビフィズス菌抽出物、醣酵代謝産物等の微生物由来の抽出物； $\alpha$ -及び $\gamma$ -リノレン酸、エ

イコサペンタエン酸及びそれらの誘導体、エストラジオール、エテニルエストラジオール等のホルモン類、グリコール酸、クエン酸、乳酸、リンゴ酸、酒石酸、コハク酸等の有機酸及びそれらの誘導体並びにそれらの塩から選ばれる一種又は二種以上である請求項1記載の皮膚外用剤。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項4

【補正方法】変更

【補正内容】

【請求項4】 更に、成分(C)としてビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩、グリチルレチチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩から選ばれる一種又は二種以上を含有することを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載の皮膚外用剤。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】すなわち、本発明は、次の成分(A)及び(B)；

(A) ブクリョウ、ニンジン、オタネニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ、イラクサ、ウイキョウ、ウイッヂヘーゼル、ウコン、コガネバナ、キハダ、オトギリソウ、イネ、イブキトラノオ、カミツレ、カワラヨモギ、キウイ、キュウリ、スイカズラ、クララ、ブドウ、クチナシ、クレソン、コンフリー、サボンソウ、サボテン、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スギナ、ボダイジュ、サルビア、センブリ、センキュウ、クワ、ダイズ、タチジャコウソウ、トウキ、トウキンセンカ、ドクダミ、ナツメ、ニワトコ、パセリ、ハトムギ、ブッチャーズブルーム、ヘチマ、ガマ、ホップ、マロニエ、メリッサ、モモ、ユキノシタ、キイチゴ、ラベンダー、レンゲ、バラ、ノイバラ、ローズマリー、カンゾウ、チャ、ユリ、オオムギ、コムギ、アシタバ、アンズ、カラスマギ、トウモロコシ、ゼニアオイ、ムラサキ、トウガラシ、ショウガ、レタス、レモン、マルメロ、オレンジ、イチゴ、ベニバナ、ブナ、ゲンチアナ、リンドウ、ハッカ、ミドリハッカ、セイヨウハッカ、ムクロジ、ユーカリ、ウスベニアオイ、クマザサ、ウスバサイシン、ケイリンサイシン、オドリコソウ、ゴボウ、ニンニク、ハウチワマメ、イナゴマメ、マツ、キヅタ、ヤグルマソウ、ワレモコウ、コボタンヅル、シモツケ、アボカド、トウチュウカソウ、カイヅウ、グレープフルーツ、ブルーン、ライム、ゲンノショウコ、シイタケ、オノニス、トルメンチラ、ユズ、オウレン、ヒノキ、ボタン、オオバジヤノヒゲ、オリーブ、ヒマワリ、ホホバ、マカデミアナッツ、メドウホーム、ツバキ、アーモ

ンド、カカオ、ゴマ、シア、ボラージから選ばれる一種又は二種以上の植物抽出物

(B) 保湿剤、細胞賦活剤から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上

更に、成分(C)として、ビタミン類、グリチルリチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩、グリチルレチン酸及びその誘導体並びにそれらの塩から選ばれる薬効剤の一種又は二種以上を含有する皮膚外用剤を提供するものである。

#### 【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】すなわち、ブクリョウ、ニンジン、オタネニンジン、アルテア、アルニカ、アロエ(キュラソーアロエ、アロエペラ)、イラクサ、ウイキョウ、ウイッチヘーゼル(ハマメリス)、ウコン、コガネバナ(オウゴン)、キハダ(オウバク)、オトギリソウ、イネ(コメ)、イブキトラノオ、カミツレ、カワラヨモギ(インチンコウ)、キウイ、キュウリ、スイカズラ(キンギンカ)、クララ(クジン)、ブドウ、クチナシ、クレソン(オランダカラシ)、コンフリー(ヒレハリソウ)、サボンソウ、サボテン、サンザシ、ジオウ、シソ、シャクヤク、シラカバ、スキナ、ボダイジュ、サルビア(セージ)、センブリ、センキュウ、クワ(ゾウハクヒ)、ダイズ、タチジャコウソウ(タイム)、トウキ、トウキンセンカ、ドクダミ、ナツメ(タイソウ)、ニワトコ、パセリ、ハトムギ(ヨクイニン)、ブッチャーズブルーム、ヘチマ、ガマ(ホオウ)、ホップ、マロニエ、メリッサ、モモ、ユキノシタ、キイチゴ、ラベンダー、レンゲ、バラ、ノイバラ(エイジツ)、ローズマリー(マンネンロウ)、カンゾウ、チャ(リョクチャ、コウチャ、ウーロンチャ)、ユリ、オオムギ(麦芽根)、コムギ、アシタバ、アンズ(キョウニン)、カラスムギ、トウモロコシ、ゼニアオイ(ウスベニタチアオイ)、ムラサキ(シコン)、トウガラシ、ショウガ、レタス、レモン、マルメロ、オレンジ、イチゴ、ベニバナ、ブナ、ゲンチアナ、リンドウ(リュウタン)、ハッカ、ミドリハッカ(スペアミント)、セイヨウハッカ(ペパーミント)、ムクロジ、ユーカリ、ウスベニアオイ、クマザサ、ウスバサイシン、ケイリンサイシン、オドリコソウ、ゴボウ、ニンニク、ハウチワマメ、イナゴマメ、マツ、キヅタ、ヤグルマソウ、ワレモコウ(ジユ)、コボタンヅル、シモツケ、アボカド、トウチュウカソウ、カイソウ(コンブ、マコンブ、ワカメ、ヒジキ、ヒバマタ、ウミウチワ、マツモ、モズク、イシゲ、ハバノリ、コンブモドキ、フクロノリ、イワヒゲ、カゴメノリ、アナメ、スジメ、トロロコンブ、カジメ、ツルアラメ、チガイソ、エゾイシゲ、ラッパモク、ホンダワラ、オオバモク、ジ

ヤイアントケルプ等の褐藻類；テングサ、ヒラクサ、オニクサ、オバクサ、トサカノリ、キリンサイ、ツノマタ、トチヤカ、スギノリ、シキンノリ、カイノリ、ウスバノリ、ウシケノリ、アサクサノリ、フサノリ、カギノリ、ヒビロウド、カタノリ、ムカデノリ、マツノリ、トサカマツ、フノリ、イバラノリ、オゴノリ、カイメンソウ、ダルス、イギス、エゴノリ、コノハノリ、ヒメゴケ等の紅藻類；クロレラ、アオノリ、ドナリエラ、クロロコッカス、アナアオサ、カワノリ、マリモ、シオグサ、カサノリ、フトジュズモ、タマジュズモ、ヒトエグサ、アオミドロ等の緑藻類；スピルリナ等の藍藻類)グレイプフルーツ、ブルーン、ライム、ゲンノショウコ、シイタケ、オノニス、トルメンチラ、ユズ(キジツ)、オウレン、ヒノキ、ボタン(ボタンビ)、オオバジャノヒヂ(バクモンドウ)、オリーブ、ヒマワリ(サフラワー)、ホホバ、マカデミアナッツ、メドウホーム、ツバキ、アーモンド、カカオ、ゴマ、シア、ボラージ(ルリヂシャ)等が挙げられ、これらの一種又は二種以上を組み合わせて用いても良い。(尚、( )内は、その植物の種類、別名、生薬名等を示す。)

#### 【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正内容】

【0014】このうち、好ましいものとしては、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸またはそれらの塩、コラーゲン、エラスチン、ケラチンから選ばれるタンパク質またはそれらの誘導体、加水分解物並びにそれらの塩、グリシン、セリン、アルギニン、グルタミン、グルタミン酸、テアニン、プロリン、ピロリドンカルボン酸及びその塩から選ばれるアミノ酸およびその塩並びにそれらの誘導体、ソルビトール、エリスリトール、キシリトール、キシロース、トレハロース、イノシトール、グルコース、マンニトール、ムチン、パンテノール及びその誘導体並びにそれらの塩、尿素、リン脂質が挙げられる。

#### 【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正内容】

【0035】本発明の(A)成分以外で用いられる植物抽出物としては、アスパラガス、アカネ、アカブドウ、アカメガシワ、アケビ、アサ、アサガオ、アズキ、アセンヤク、アマチャ、アマチャヅル、イタドリ、イチジク、イチョウ、イランイラン、ウツボグサ、ウメ、ウワウルシ、ウンシュウミカン、エゾウコギ、エビスグサ、エンジュ、エンドウ、オオバコ、オクラ、オグルマ、オニグルミ、オミナエシ、オランダイチゴ、カキ、カキドウシ、カシュウ、カシュー、カノコソウ、カラスウリ、